

表紙
『ザ・ドクター』大竹しのぶ 2

INTERVIEW:1
高校生と創る演劇『ミライハ』
未来はどう転ぶかわからないスリリングさ。
松原俊太郎
スペースノットブランク 4

INTERVIEW:2
市民と創造するダンス公演
『舞踏 豊橋妖怪百物語』
妖怪たちとの密約を果たします。
田村一行 6

INTERVIEW:3
野村万作・野村萬斎
狂言公演2021『栗焼』『法螺侍』
伝統芸能の真骨頂は「時分の花」。
野村萬斎 8

INTERVIEW:4
アル☆カンパニー『POPPY!!!』
基本的には人に優しいお芝居です。
平田満 10

INTERVIEW:5
『ザ・ドクター』
かつていいドクターの
強さと弱さを
出したいのです。
大竹しのぶ 12

INFORMATION
PLAT
主催公演情報 14

PURA PURA
バラコの寄り道ぶらぶら 桑原裕子
「好き」を見つけた、文化祭 15

SUPPORT
TICKET CENTER

裏表紙
市民と創造するダンス公演
『舞踏 豊橋妖怪百物語』
PLAT CALENDAR

PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2021年11月-12月

vol. 52



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

November 11

- 4 [木] 第29回三遠南信サミット2021 in 東三河◎PLAT主ホール
- 6 [土]-7 [日] 高校生と創る演劇『ミライハ』◎PLAT アートスペース
- 12 [金]-13 [土] 劇団スーパー・エキセントリック・シアター 第59回公演
ミュージカル・アクション・コメディ
『大秦ラブソディ〜看板女優と七人の名無し〜』
◎PLAT主ホール
- 12 [金] ヘンデルと仲間達をしてライバル◎PLAT アートスペース
- 14 [日] 第54回東三民踊まつり◎PLAT主ホール
- 14 [日] 愛知大学文学部人文社会学科メディア芸術専攻『記憶潜水』
◎PLAT アートスペース
- 16 [火]-17 [水] 豊橋演劇鑑賞会 第287回例会 文化座『命どろ宝』
◎PLAT主ホール
- 21 [日] 令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業
市民と創造するダンス公演『舞踏 豊橋妖怪百物語』
◎PLAT アートスペース
- 22 [月] 映画「石井桃子の挑戦 かつら文庫」& 森英男監督トーク
◎PLAT アートスペース
- 24 [水] プラットワンコインコンサート
辻 純佳「名ヴァイオリニスト クライスラーを愉しむ音楽会」
◎PLAT アートスペース
- 25 [木] 野村万作・野村萬斎 狂言公演2021◎PLAT主ホール
- 28 [日] ビティナ・ピアノステップ 11月豊橋地区◎PLAT アートスペース

PLAT CALENDAR

December 12

- 4 [土]-5 [日] PLAT小劇場シリーズ アル☆カンパニー『POPPY!!!』
◎PLAT アートスペース
- 9 [木] 大学・短期大学・専門学校 進学ガイダンス◎PLAT アートスペース
- 10 [金]-12 [日] 『ザ・ドクター』◎PLAT主ホール
- 17 [金] 曾部遼平×増田達斗 リートデュオリサイタル◎PLAT アートスペース
- 19 [日] ミュージックランド小林 ピアノ発表会◎PLAT アートスペース
- 21 [火] 東三河業界研究 インターンシップフェア No.1◎PLAT アートスペース
- 22 [水] 進路説明会 豊橋会場◎PLAT アートスペース
- 24 [金] プラットワンコインコンサート 波多野董「祈りと憧れ」
◎PLAT アートスペース
- 25 [土] TORIO de CANTABILE 1st CONCERT
オペラ『ヘンゼルとグレーテル』-リーディング&コンサート公演-
◎PLAT アートスペース

表紙/大竹しのぶ『ザ・ドクター』
裏表紙/『舞踏 豊橋妖怪百物語』
撮影:萩原ヤスオ

企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有株式会社STAFF
令和3年10月発行 52号[隔月発行]



いの経験を共有しながら、演劇という一つの要素だけに留まらない表現の形があるということをお互いに腑に落としながらやっていきたいです。

矢作——『ミライハ』というタイトルに込めた思いをぜひお聞かせください。

松原—— 高校生という要素は大きかったですね。ファシズムに加担してしまった未来派と、未来を託される高校生という、存在のコントラスト、そのイメージは舞台でも使えると思いました。ストレートな表現の危うさをひしひしと感じながら、どう転ぶかわからないスリリングさを、高校生たちにも感じてもらいながら発話できたらいいなと思います。

中澤—— 未来という言葉から、希望とか明るい、良いことが待っている将来というイメージが浮かんだのですが、よくよく考えると未来は何が起きてもおかしくない。高校生たちは未来を象徴するような存在でもありますし、将来のことも、どうなるかはわからない。未来のその曖昧さ、わからなさがスリリングだから、単純に明るい作品にはならないと思います。でも『ミライハ』というタイトルのクールさは純粋に表していきたいです。

矢作—— ありがとうございます。未来というキーワードから、どの様な作品になるか楽しみにしています。

中澤—— 松原さんのテキストは、どういう上演になるかが、自然と、必然的に立ち上がってくる気がしています。戯曲なしで創る作品では絶対に生まれえない、テキストが持っている力というものがあるって、俳優たちと関わり合う上で、テキストが間にあることで生じるものが僕たちにはとても重要です。それを観客とも共有してきて、今回で協働3作目となり、嬉しいかぎりです。

矢作—— 9月の下旬から約40日間稽古をするにあたって、どのような稽古にしていきたいと思っていますか。

中澤—— それぞれの話をちゃんと聞きたいと思っています。それぞれのシーンに対して、都度質問しながら、全体で考えを共有し、作品を創りたい。違う方向を向いている高校生たち一人ひとりが、それぞれのやり方でゴールに向かって、複数のルールを交わらせていくようにして、作品を仕上げていきたいです。

小野—— 松原さんのテキストを扱いながら、そこには現れない部分も追及していけたらいいなと思います。そういう時間も表現や上演に繋がっているの、高校生たちとの関係性を大切に作りながらやりたいです。

中澤—— 関係性や環境を作ることは、実際にはとても難しいことだと思います。それを僕たちはこれまで実現してきているという自信を持ち、高校生たちとお互

それぞれの身近さを感じて、ここに松原さんのテキストが加わると、僕たちが知らない、まだこの世に無いものが生まれてくると思いました。上演に向けて、もともとその人が持っているものを見てみたいと思っていますが、高校生たちが松原さんのテキストと出会って、どう葛藤していくのが楽しみです。

矢作—— 松原さんとしてスペースノットブランクの二人の演出の魅力、スペースノットブランクとしての松原さんのテキストの魅力は、どこにあると思われますか。

松原—— このテキストからこの演出が出てくるのかという新鮮な驚きがあり、でもこれしかないという必然性を感じられる、そういう不思議なことが起こるのです。俳優との関わり方も特殊で、やらされている感が全くない。役としても、俳優自身としても成立する形で、それはなかなか無い、すごいことだなと思います。

小野—— 松原さんが選ぶ言葉に、毎回ビックリします。単語もだけど、それとそれを繋げるのですかという意外性もすごい。松原さんの文字の羅列にもシンパシーを感じていて、一緒に作品を創るようになって、作品のテーマや方向性を話し合ったとき、お互いにやりたいことを提案し合える関係性が生まれたことに魅力を感じています。

松原俊太郎[まつばらしゅんたろう] / 劇作家。1988年、熊本県生まれ。神戸大学経済学部卒。2015年、処女戯曲『みちゆき』で第15回AAF戯曲賞大賞受賞。2019年『山山』で第63回岸田國士戯曲賞を受賞。小説『ほんとうのこと』を『群像』(講談社)2020年4月号に寄稿。主な作品に『忘れる日本人』『正面に気をつけろ』『光の中のアリス』等。2021年度セゾン文化財団セゾン・フェロー1。

スペースノットブランク / 小野彩加と中澤陽が舞台芸術を制作するコレクティブとして2012年に設立。舞台芸術の既成概念の捉われず新しい表現思考や制作手法を開発しながら舞台芸術の在り方と価値を探究している。環境や人との関わり合いと自然なコミュニケーションを基に作品は形成され、作品ごとに異なるアーティストとのコラボレーションを積極的に行っている。

小野彩加[おの・あやか] / 舞台作家、ダンサー。1991年12月30日生まれ。2016年から2019年まで多田淳之介率いる〈キラリふじみ・リージョナルカンパニー ACT-F〉に参加。ダンサー、パフォーマーとして、白神ももこ『絵のない絵本』、黒沢美香『6:30 AM』、浅井信好『はてしない物語』、かえるP『スーパースーハー』、三野新『アフターフィルム』、ピチエ・クランチェン『MI(X)G』などの作品に参加している。

中澤陽[なかざわあきら] / 舞台作家、パフォーマー。1992年6月4日生まれ。映像作家として、室伏鴻のアーカイブ映像の制作、中村蓉『リバーサイドホテル』『顔』などの作品に参加。パフォーマーとして、ファビアン・ブリオヴィル『THE SOMA PROJECT』、藤田貴大『A-S』、ゆうめい『フェス』『メ』、三野新『アフターフィルム』、ヌトミック『ワナビエント』、福井裕孝『デスクトップ・シアター』、ウンゲツィーフア『ロイコロディウム』などの作品に参加している。



矢作—— 演出のスペースノットブランクのお二人と、劇作の松原さんにそれぞれ自己紹介をお願いできますでしょうか。

小野—— スペースノットブランクの小野彩加です。中澤陽さんと二人で舞台作家として活動しています。個人ではダンサーとしても活動しています。2019年にPLATのダンス・レジデンスで二週間ほど滞在して作品を創らせていただき、それ以来のPLATでの制作なのでとても楽しみです。

中澤—— スペースノットブランクの中澤陽です。普段は小野彩加さんと舞台を創りながら、自身もパフォーマーという形で舞台に出演しています。今回は二人で演出という形で携わります。

松原—— 松原俊太郎です。戯曲と小説を書いています。豊橋では、地点に書き下ろした戯曲『君の庭』が昨年上演されました。スペースノットブランクとは『光の中のアリス』と『ささやかなさ』という2作に続き、『ミライハ』が3作目になります。

矢作—— 高校生たちと作品を創る事に関して、どんなことを考えているかをお聞かせください。

中澤—— 5月のオーディションのときとは異なり、8月のワークショップでは作品を創る目的のもと集まったのだという、良い団結力を感じました。個人でもあり、集団でもある、その両面を作品に活かす形で創っていける気がしました。

矢作—— 松原さんはオーディション経て、どのように脚本を書いているかと考えていらっしゃいますか。

松原—— 高校生のストレートな表現は強みですが、それを嘘ではない形でどう成立させるのかをこれから1ヶ月、延々と考えることになると思います。高校生に話を聞いてみるとみんな意外とアニメ好きで、アニメと演劇は全然違うのですが、高校生の中では繋がっていて、キャラと役の意識がすごく近い。そのへんはうまく使って、戯曲らしく一人ずつなにかしらの運命を背負って舞台に立つことを目指したいです。

矢作—— これから、稽古に入っていくにあたり、どの様に進めていこうと思っていますか。

小野—— 高校生たちがどんな表現を生むのか、集団での関係性の作り方も含めて選択できるように、様々な可能性に挑戦できる場を作っていきたいです。

中澤—— 僕たちの作品創りは戯曲のルールに沿って、ただそれを成立させていく作業とは少し違います。複数のスタート地点から、見えないゴールに向かっていきます。昨日ワークショップでシアターゲームをやったとき、

未来はどう転ぶかわからないスリリングさ。 作 松原俊太郎 演出 スペースノットブランク

小野彩加、中澤 陽

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 芸術文化プロデューサー

11月6日[土]13:00開演 / 18:00開演
7日[日]13:00開演 / 17:00開演
作 = 松原俊太郎
演出 = スペースノットブランク (小野彩加、中澤 陽)
出演 = オーディションで選ばれた高校生
会場 = PLAT アートスペース
高校生と創る演劇

『ミライハ』

あなたはわたしたちの未来、可能性、想像力——
おっけー、じゃあそれぜんぶ見せてあげるね——

の町にあるんだと、改めて豊橋という町を見つめるきっかけになればと思います。演じる方々も、自分たちの町の話を踊るので、そもそもそれぞれに町の風景を背負っています。東京から来たよと者がお話しだけ借りてやるのとは、体が持つ説得力が違います。出演者の方が家のお前のことが百物語に出ていて、「何かすごいおどろおどろしい地獄の絵が描いてあってさあ」とかお話ししてくださるのですが、まさに日常のすぐ隣に異世界への扉が開かれているんです。11月に向けて少しでも多くその扉の向こうの世界を覗き見て、今回のメンバーならではの形を見つけ、豊橋の皆様にとって親しみの持てる作品になればと考えています。そういうところぜひお楽しみください。

矢作——ありがとうございます。楽しみにしております。

矢作——劇場としては、年齢層の幅広い市民の方たちが深層レベルでのシンクロというか、共感性がつかれることを期待します。

田村——作品作りは稽古場作りだと思いますし、共通言語をどれだけ作れるかだと思います。そのためにはいかに一緒に時間を過ごすかが大事です。今回、7月に贅沢な長いクリエーションの時間が取れて、一人一人に色々とお話しいただくようなワークができて、人柄や普段どんなことをやっているかも分かりました。一つの作品を創作するためには、そういう遠回りが大切で、今回の稽古期間でかなり皆さんと距離が縮まりました。

矢作——最後に観に来る人に対して、こんなところを楽しんでというアピールポイントをいただければと思います。

田村——こんなにたくさん魅力的な話しが自分たちが

て、ものすごい世界と磨さんが合致し、ただ「感動した」とか「面白かった」ではなく、「1秒でも早くあの世界で生きたい!」という感情が沸き上がったんです。そうして大学時代にはもう大駱駝艦の門を叩き、あっという間に四半世紀が過ぎようとしています。

矢作——自分が一生この道を歩んで行くところまで至った、舞踏のコアな魅力は何なのでしょう。

田村——「舞踏」をやろうとした瞬間、それは「舞踏」でなくなってしまう。一生わからないから面白いんだと思います。そもそも飛んだり跳ねたりしないでまず立つことから表現が始まるという考えが僕に合っていました。例えば海を見ながら風に吹かれて「ああ、何かいいな」という感覚があったとします。何らかの方法でその感動に形を与えるとき、同時に失ってしまうものがあるように感じる場合があります。自分の場合、それを身体そのもので表現した方がその喪失感が少ないんです。そこでは「上手にやろう」とか「褒められるようにやろう」という作画的な考えは必要なく、何をどう頂いたかを丁寧に再現するのが重要です。色々な表現が始まる根源には身体が必ずあって、僕はその感動との向き合い方を示しているのが舞踏だと思います。だから生きている限りは「今日で舞踏おしまい!」となることは考えられないですね。

矢作——舞踏では、白塗りをされますよね。何故、舞踏の人たちは白塗りにされるのでしょうか。

田村——必ず白塗りをしなければいけないわけではないのですが、白塗りは重要な要素だと考えています。行ったことないですけど例えば仮面舞踏会では、仮面で個を消すことによって逆に個性や欲望を出すのだと思います。白塗りも同じで、稽古で変な顔や怖い顔をするのが恥ずかしくても、白塗りをするとそんな感情は一切なくなります。消すことによって活かすという効果があるんです。あとは単純に見る側にこの世ならざる異物のイメージとか、色んな感じ方をしてもらえますよね。

矢作——舞踏の場合のカウントというか、拍というか、不思議なシンクロはどのようにつくってらっしゃるのですか。

田村——呼吸を合わせるんです。音楽で合わせるわけではありません。出演者の方々は7月の稽古で感じたと思うのですが、呼吸を合わせることはイメージを共有することでもあって、呼吸が合わないということは見ている景色や体の状態や感情が他の人と異なっているのだと思います。踊っている時、自分に集中し過ぎないで舞台全体を感じているかということにも関係してきます。

矢作——大駱駝艦では、壮大な音楽が流れている中で、地に這っていたり宙に舞っている感じで、そのセンターに磨さんがいると感じました。

田村——曼荼羅みたいです。僕は磨さんから振付をいただく時、動きを見るだけでなく磨さんがその時どんな世界にいて何を感じているのだろうかということのパッキングしようと思います。それは温度や質感であったり、目に見えない色んなものを含んでいます。磨さんにシンクロしていくような感じです。

矢作——7月に『市民と創造するダンス公演』でのワークショップと創作の第一弾を終え、今の手応えや感触をまずお伺いできますか。

田村——今回は11月に先立っての稽古でしたので、基本体操を行ったり、「嘘をつかないで」とか「上手に踊らないで」など、身体との向き合い方をしつこくお伝えしました。僕たちの踊りは振りだけを渡しても、「舞踏的な何か」で終わってしまうことが多いんです。でも最後に皆さんが踊る姿を見て、僕が伝えたいことが皆さんの体にちゃんと入っていたと感じたので、今後がとても楽しみです。

矢作——妖怪を題材に舞踏をベースにしていることが豊橋の人たちの興味を引いたのかなと感じたのですが、いかがですか。

田村——自分の町のあちこちに棲む「妖怪」の話しなんてどう考えても魅力的ですね。さらにそれを「舞踏」という非日常の世界がどのように表現していくのか、という興味を持っていただけたのではないのでしょうか。毎年、大道芸で大駱駝艦が豊橋に来ていたのも大きかったとも感じています。

矢作——今回『豊橋妖怪百物語』という、この世のものではないものをテーマにしようとしたのは、どういったところからでしょうか。

田村——3年前に『豊橋妖怪百物語』の作者である内浦さんに連れて行っていただいた豊橋妖怪ツアーがすごく刺激的だったんです。妖怪について語る内浦さんは巫女のように、その姿はまさに「舞踏家」でした。僕もともと妖怪とか好きで、舞踏に通じる部分がたくさんあると感じています。大駱駝艦の踊りの基本的なメソッドの中に、自分の体は空っぽで、自分の体以外の部分が実体であるという考えがあります。「見えない部分」や「ないもの」をとっても大事にしているんです。例えば屋根がピシピシッと鳴って物がカタッと落ちると「何だろう」と思いますよね。恐怖の正体が分からないときは怖いけど、その現象に「家鳴り」という名前を付けて形を与える。そうすることによって「ある」ものにする。その作業と振付はとても似ています。そもそも舞踏が生まれた要因には日本の風土が大きく影響していますが、中でも日本人の神様や妖怪などの目に見えないものへの感覚は重要な要素だと思うんです。海外にも類似するものはありますが、その土地の風土から生まれたモノにはオリジナリティがあって、豊橋にはこんなにも特有の妖怪たちが生息している。あの日以来、ことあるごとに「アナドあさん…」とか「石巻山…」とか思い出し、いつか作品にしたいとずっとモヤモヤしていたんです。

矢作——田村さんと舞踏との原点をお話しいただけますか。

田村——演劇が好きで、高校時代から一人で劇場に行くようになりました。そんな中、鴻上尚史さんの『ゴドーを待ちながら』に出演していた、大駱駝艦を主宰する僕の師匠の磨(赤兒)さんに衝撃を受けました。その後、偶然録画していた大駱駝艦の『雨月』という舞台を見

聞き手 矢作勝義 種の日よはし芸術劇場P.L.N.芸術文化プロデューサー

妖怪たちとの密約を果たします。田村一行

振付・演出・美術・出演

田村一行[たむら・いっこう]／日本大学芸術学部卒。1998年大駱駝艦に入艦。磨赤兒に師事。以降、大駱駝艦全作品に出演。2002年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第34回舞踊批評家協会新人賞受賞。2008年文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えり、笠井叡、ジョセフ・ナジ、小松原庸子の舞台など客演も多数。また、子供から高齢者まで幅広い対象者への舞踏ワークショップ・アウトリーチを各地で展開し、好評を得ている。11年より(一財)地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」登録アーティスト。



11月21日[日]14:30開演

振付・演出・美術・出演＝田村一行

出演＝公募で選ばれた市民／小田直哉・藤本 梓／内浦有美

会場＝PLAT アートスペース

令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業
市民と創造するダンス公演

『舞踏 豊橋妖怪百物語』

矢作——今回演じていただく『栗焼』と『法螺侍』の二作品の内、『法螺侍』は、万作の会としては狂言にシェイクスピアの原作を取り入れた最初の作品になるのですね。

萬齋——もともとはシェイクスピア学会で披露するという事で、シェイクスピア研究家の故・高橋康也さんが作られ、1991年にイギリスでのジャパン・フェスティバルで上演されました。『ヘンリー四世』と『ウィンザーの陽気な女房たち』の二作に出ている「ファルスタッフ」というキャラクターが、とても狂言に近いということで、シェイクスピアを翻案したヴェルディの「ファルスタッフ」というオペラを狂言化したというのが、正確な言い方ですが、シェイクスピアを狂言に取り入れた最初の作品であることは確かですね。

矢作——狂言のスタイルでシェイクスピア作品をやるとするのは、演じる側からはどのようなところが面白いと考えていらっしゃるのでしょうか。

萬齋——やはり狂言からはみ出した色恋沙汰とか、饒舌なところが大変です。言葉に頼りがちなシェイクスピアを、我々は、肉体、身体言語で肉付けすることによって、わかりやすくなるというところが利点です。観る側にとっては、ロンドンのグローブ座の4本の柱と同じく、四角い物体に屋根がついて、土俵のような舞台上演するという点が能舞台と共通します。野外でやっていた古典的な世界ですから、夜とか昼とか朝は照明が変わるわけでもなく、口で言うしかない。言葉と体だけですべてを表現していくという共通項があるので、演じていて違和感がないし、観ていても楽しめるということではないでしょうか。

矢作——今回『法螺侍』を作り直すにあたってどういったところを、作り直されたのでしょうか。

萬齋——現代人が演じることで、現代感覚が持ち込まれるし、新作となると、人間の個性で肉付けし、また、こなれていないぶん、穴埋めしなければいけない。そういうところを活かしたり、削ったりという、ジャッジメントをしました。

矢作——萬齋さんと息子の裕基さんに世代交代をされるにあたって、意識したことはおありですか。

萬齋——私が演じた役を彼が演じるので、かなり教え込む。とは言え、新作では創作的な場に身を置く意味を教えたいと思いました。それをまた彼なりに意識し、どういう役目をしなければいけないか、という自覚があったように思います。古典では、半ば強制的なものが大きいので、堅苦しくなるわけですが、型を習得したうえで、その先は自分の個性のよりしろがないと芸は面白くないですから。古典だけではなく、新作にも時々、身を置くことで古典と自分の距離を確かめてもらいたいと思っています。

矢作——若い世代の方が多くなってくると、身体性の見え方が変わってきていると思うのですが、教えるポイントが変わってきたと思われることはあるのでしょうか。

萬齋——全体的に少し言葉を多用します。小さい頃から

ら稽古してきた人は、やはり一種のネイティブスピーカーですが、ある程度大人になってから入ってきた弟子には言葉で、目的意識というか、「こういう結果のためにこう、この感情のためにこういう型をして、こうするのだ」という教え方をしないと、なかなか型自体を覚えられない。手が長いということは、やはり脇の隙間が大きくなり、パーツが大きい分、より神経をつかうことが必要です。逆に言えば、手を伸ばせば、大きな表現力にもなり、見え方も変わります。

矢作——三代とろって観に来られるお客様や、新世代の方が観に来られるような状況があると思うのですが、とういう今の時代の客席の雰囲気はどう感じてらっしゃいますか。

萬齋——どちらかというと、私のファン世代は少しお年を召された高齢の親世代を連れていらっしゃることも多いです。私よりも若い世代が小さい頃から見せたいと、

11月25日[木]

14:00開演／18:30開演

出演＝野村万作、野村萬齋、
ほか万作の会

会場＝PLAT主ホール

野村万作 野村萬齋

狂言公演2021

『栗焼』『法螺侍』

INTERVIEW:3



聞き手 矢作勝義 種の国とよはし芸術劇場ロケット芸術文化プロデューサー 伝統芸能の真骨頂は「時分の花」。野村萬齋 出演

お子さんを連れてこられるということもあります。裕基は今年で大学卒業なので、少しずつ活動を広げ、同世代の20代とか、30代の人を集客できるようにもなりたいでしょうし。こちらも芸の厚みというか、90歳から20歳までの厚みを見せるのと同じように、お客さんも興味を持っていただけるのが理想ですね。

矢作——コロナの影響もあり、劇場などに足を運ぶのをためらいがちになっているこの状況の中で狂言を続けることを、どう考えていらっしゃるのでしょうか。

萬齋——数百年のうちこういうことは何度もあったと思うのです。嘆くよりも、ひたすら稽古をし、技術的に解決できることに邁進し、教わったことを、もう一度反芻して深める。ある意味、古典の強さはここにあり。新作しかやらない現代劇では、公演がないかぎり何もすることがなくなってしまいます。もちろん自分の体作りを怠らない方や、ボイストレーニングをしている方もいらっしゃると思いますが、去年、息子は作品に向き合う稽古三昧でした。そこで非常に伸びたから、かけがえのない時間になれたと思います。ただ、収入という意味では非常に厳しく、深刻な状況ではありますが、コロナ禍でも通ってくださっているお客様のためにもやらなければいけないし、門を閉ざしてしまっただけでは、入ろうとしても入れないのではないのでしょうか。

矢作——萬齋さんから見て、万作先生の衰えることなき、飽くなき芸への道をどうぞ覧になっていらっしゃるのでしょうか。

萬齋——飽くなき芸への探究心が長生きもさせるし、生きる糧になります。ですから、90歳とは思えないエネルギーを持っています。もちろん身体的な衰えというのはどうしてもあると思いますが、自分が表現し、突き詰めたい目標があることで、型を深め、型から解き放たれて、自由になってきている。その一つの境地をぜひ見ていただきたいと思います。世阿弥も「時分の花」という言い方をし、20代には20代のビチビチとした良さがあるし、あれあれの世代ですと、体力的にも経験値、技術が充実していなければいけない時期だと思います。父のほうは、自然体というか、自由に羽ばたいている。そういうものが、伝統芸の真骨頂だと思います。

矢作——ありがとうございます。今回、三代で上演していただけるということで、とても楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

野村萬齋[のむら・まんさい]／1966年生。祖父・故六世野村万歳及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦一山月記・名人伝』『国盗人』『子午線の祀り』など古典の技法を駆使した作品の演出、NHK『ほんごであとほ』に出演するなど幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通して狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。

矢作——昨年度はコロナの影響もあり、『POPPY!!!』という作品をリーディング形式で上演しましたが、今年本公演をすることは、どういう意味があると思われませんか。
平田——アル☆カンパニーには、リーディングや試演会というトライアウト的なものをして本公演につなげるという、お金はないけど贅沢に作ることを、もともと行っていたのです。活動全部が止まった昨年春以降に、演出家と全キャストとでZOOM会議を行い、当時の状況も踏まえて万全を尽くした上で、10日間上演の予定を2ステージ、しかも限定人数でリーディングをしようという了解を得られたのです。やり始めるとやはり演出家は演出したがり、いい稽古になりました。

本当はリーディングをして、手直しをして、贅沢を言えばプレビュー公演をして、本公演でロングランができればそれが理想なのです。一年前にリーディングをしたものをまたやるのかと思われる方もいるかもしれないが、やはり一度体を通し、お客さまの目を通したほうが完成度も高まるのです。

矢作——平田さんが作家の野田慈伸さんに書いてくれると期待していたこと、実際に出てきたものをリーディングしてみて、どう思われましたか。

平田——戯曲を書く前に、野田さんの今までの戯曲の一部分を使ってワークショップをしました。それで、野田さんの世界はわかっていましたし、何本か彼の劇団である桃尻犬の作品を見ていたので、気に入ったところはこういうところだと再確認できましたが、戯曲を書くにあたって、注文のことは一切しませんでした。オフアワーしてから時間をかけ、しかもやるかやらないかという話し合いをしたこともあって、出来上がってくるのが楽しみでした。そんなに日常生活を知らないはずなのに、自分と井上加奈子の関係をよく捉えているなというところもありました。オフアワーするまでに何度かお会いもしていたので、やはり時間をかけたほうが関係もよりきめ細かく、深くっていくのだと思います。

矢作——作品の舞台がお花屋さんだけに、チラシのメインビジュアルはとてもポップでカラフルなお花畑ですね。

平田——タイトルも『POPPY!!!』なので、ポピー畑にしよう、もうベタベタでイメージの貧しさをひけらかしているみたいですが、明るい感じにしたいなと思いました。ポピーはGW空けが盛りで、撮影時は前の日まで雨だったのが天気になって、花もまだしおれてなく、とてもいい感じで撮影してくださって。もうあれが撮れただけで、僕はよかったです。

矢作——これまで共演したことがなかった若い俳優さんの印象などをお伺いできますでしょうか。

平田——客演で、いろんな人を集めるプロデュース公演に出ると、やはりもう最年長になってくるんですよね。最年長ということで稽古もゆるく見てくれるときもあるのですが、アル☆カンパニーをやっているおかげで、作演出の方も共演者も若い方のほうが多いので、そういう人とフランクに話せるのが当たり前になってきました。価値観が違うとか生きてきた歴史がどうのこうのは全くな

平田満[ひらた・みつる] / 愛知県豊橋市出身。2018年3月まで穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザーを務め、同年4月より同劇場アソシエイト・アーティストに就任。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞主演男優賞など受賞。主な舞台に『白蟻の巣』『星回帰線』『THE NETHER』など。『海をゆく者』、『失望のむこうがわ』で第49回紀伊國屋演劇賞受賞。2005年よりアル☆カンパニーを設立。『荒れ野』『父よ!』『失望のむこうがわ』などを制作。

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザー

基本的には人に優しいお芝居です。平田満

出演



PLAT小劇場シリーズ
アル☆カンパニー

ポピー

『POPPY!!!』

不器用な人が懸命に生きる奇妙なコメディ

12月4日[土]・5日[日]14:30開演

作・演出=野田慈伸

出演=平田満、井上加奈子、町田水城、平田耕太郎、徳橋みのり、青山祥子

会場=PLATアートスペース

INTERVIEW

いですね。同じ土俵で、無理せず自然に話してくれるのがとても気持ちいいですね。去年はリーディングだったので稽古期間も2週間でしたが、今度はひと月以上稽古するので楽しみです。

矢作——一つのカンパニーとして分け隔てなく、一つの作品をみんなで作っていきこうという結束力が生まれているのだなということを感じますね。

平田——そうあってほしいと思います。この一年半くらい『艱難汝を玉にす』ではないですが、障害があったおかげで、純粋にと言ったらおかしいですが、目的意識はより強まった気はします。

矢作——リーディングまでの演出を受けて、野田さんの演出、作品の魅力はあらためてどういうところだと思われましたか。

平田——文体とかセリフはご本人の持っているものが滲み出るものです。野田さんは32歳と今までで一番若いのですが、とても説得力というか、納得のいく演出だし、普段お話ししているときはとても僕らに気を使って、敬意を持ってくださっているのですが、演出になると、変な意味の遠慮がないと言いますか、スイッチが入って、こうしたいああしたいというのがある方です。今回本当はお金かけても、面白いものができればいいのですが、空間的にも経済的にも、なかなか制約があるので、プロデューサーとしてどこまで許しているのか(笑)。でもむしろそれをバネに、制約があるからこそこのアイデアは結構面白いので、それを期待しています。

矢作——最後に豊橋のお客さまに、このような点をぜひ見てほしいというアピールをお願いいたします。

平田——基本的には人に優しいお芝居ですが、かといって甘い現実の中に生きているわけではありません。若い人だと独りよがりであつたり、あるいは年を取ってくると、かつての自分の芝居が一番だと思っていたりとか、そういったものが出てきますが、今の若い人はコロナ禍の影響もあり結構厳しい状況にあります。特にお芝居している人はね。それをわかった上で、人が人に訴えていくというのが、基本的に優しいのです。

セリフとか状況設定とか行動は、多分やや不謹慎なところが野田さんの特徴です。でも、そういうことを通すから信用できる。建前とか理屈で、ぶっているのではなく、本音で言おうと思ったらどうやるしかない。だからことや喜劇タッチになるのです。これをシリアスなつらい、俺たちはこうなんだ、あるいはこうしてこうよと思ふ的なことをうたうと、多分嘘っぽくなる。そういうところが野田さんの作品はとても信用できるんです。元の心底はとても人に優しい作品なので、そういうところが伝わったらいいなと思います。

矢作——ありがとうございます。

2年前にロンドンでこの作品を観劇されたということですが、どういところが素晴らしかったのでしょうか。

大竹—— 2019年の8月に、この芝居は絶対に観た方がいいよと友人に勧められたのがこの『ザ・ドクター』でした。言葉はわからないのに、11人の出演者の細やかな表情に目が釘付けになり、繊細な演技を観ているだけでわくわくして引き込まれました。主演のジュリエット・ステューブソンさんの演技にはエネルギーとリアリティがあって、理知的でクールなお芝居に魅了されました。自分が演じるとは思ってもみなかったので、お話をいただいた時はびっくりしましたが、あの緊張感を自分が体験できると思うと嬉しかったです。

あらためて戯曲を読んだ時には、どの様な印象でしたか。

大竹—— ジェンダーや宗教的な問題については、観た

時に何となく分かったのですが、こんなに深く現代人が抱えている問題を討論している話だったんだ、と思いました。会話にリアリティと、リズムがあって、これを役者が再現するのは面白いだろうな、というのが日本語で読んだ感想です。

「人間である前に医師である」という主人公の女性像について、どのようなイメージを持たれていますか。

大竹—— 頭も腕もあるドクターで、カッコいい人ですが、完璧な人間はいないし、みんな孤独とか寂しさも抱えながら生きてるので、その強さと弱さを出したいです。次から次に患者を受け入れなければいけない状況のなかで、医師は問題を解決しながら生きていく。例えば作品中にAとBの治療法があるとして、一人はAが正しいと言う、別の一人はBが正しいと言う。でも実は一

出演 大竹しのぶ 強さと弱さを出したいのです。 カッコいいドクターの

大竹しのぶ[おおたけ・しのぶ] / 1957年7月17日生まれ。東京都出身。1975年映画『青春の門 - 筑豊編 -』ヒロイン役で本格的デビュー。その鮮烈さは天性の演技力と称賛され、同年、朝の連続ドラマ小説『水色の時』に出演し、国民的ヒロインとなる。圧倒的な存在感は常に注目を集め、映画、舞台、TVドラマ、音楽等ジャンルにとらわれず才能を発揮し、作品毎に未知を楽しむ豊かな表現力は主要な演劇賞を数々受賞し、2011年に紫綬褒章を受勲。2021年には、東京2020オリンピック閉会式に出演。世代を超えて支持され続けている名実ともに日本を代表する女優。近年の出演作に、テレビドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺(ばなし)〜』(19)、『監察医 朝顔(第2シーズン)』(21)、舞台『女の一生』(20)、『フェードル』『夜への長い旅路』(21)など。



INTERVIEW:5

方のやり方は正しくなかったので患者は死んだという場面があって。そうか、そうやって日々命と向き合って、治療法を話し合っ、命に懸けている。だから、やるにあたって、医師というのがどうい神経で患者と向き合うのか、基本的なところを自分できちんと創らないといけないと思いました。

例えば「あの子を助けたい」という言葉が、感情に流されて「あの14歳の子をどうしても助けたい」と思うのではなく、「助けるのが当たり前」と思う、それが医師なのということが分かって。選択した方法によって、患者が死んでしまうことがあるように、死も身近にある。「だけどそれは仕方がないから次にいく、だって次の患者が待っている」と、そのクールさと苦しさはすごいと思います。コロナ禍で、どの様な心境でこの作品に取り組んでいきたいと思っていられるのでしょうか。

大竹—— コロナ禍でのドクターとこの戯曲の中のドクターを比べることはできないのですが、頭も体も常に回転している職業だだと思いますね。その判断力に、患者は命を託している。そこにまた、現代の色々な問題が次から次に絡んでくる。病院内のねたみや嫉妬によって地位を奪おうとする人たちがいて、それを報道するメディアがいて、そのメディアによって失脚するというような…。こんな問題だらけの世界の中で生きてると、嫌になっちゃう。それでも人は生きていかなくてははいけないと感じる戯曲ですね。

この時期に意欲的に舞台に立ち続ける理由というのは何でしょうか。

大竹—— 昨年11月に『女の一生』をやった時、50%の客席で上演したのです。『女の一生』の初演は戦時中の昭和20年の4月で、空襲警報が鳴ったら中止。それでも杉村春子さんはお客さんがいる限り、それがたった二人でも、一人でも、お芝居をやった。それと同じように、満員の劇場が当たり前ではないことを、去年の『女の一生』で知りました。今年の『フェードル』では、この芝居だけは観たいと思って来てくれたお客さんの前のめりな気持ちで、舞台に立った瞬間、伝わってきて。私たちもそれに応えるべく「ウオー」という感じで舞台から返す。

それがうねりになって劇場を支配するというエネルギーの交換が、毎日千秋楽のように続いて。「今日もあそこを目指すんだ」、オーバーな言い方だけど、「これで死んでもいい」ぐらいの気持ちでやれた。だって、明日幕は開けられないかもしれないわけだし、とにかくすごい体験でした。特に『フェードル』では、全部の感情を出して叫ぶので、滞っていた血がうわーっと駆け巡ったのだと思います。

そういうお客さんがいる限り、演じずにはいられないという心境なののでしょうか。

大竹—— 演じずにはいられないということではないですね。私たちはお芝居するのが仕事。今こそ芸術をと、今こそ演劇を観ましょう、とは思わないです。だって、ほんとはおうちにいてじっとしているほうが、お客さんは安心です。でも劇場の感染対策はすごいですよ。どの劇場に行っても、今までよりも労力もお金も使っています。大変な思いをして幕を開けるのは、覚悟がいるとは思いますが、役者もそれにこたえられる芝居をしなければいけないから、ハードルはすごく上がると思います。

栗山民也さんの演出とのコンビネーションについてはどう感じになっていますか。

大竹—— 栗山さんは役者の立ち位置まで本当に細かく演出してくださる方なのですが、今回それが絶対的に必要だと考えています。11人全員で、力も演技も意欲も揃えて立ち向かいたいので、役者の動きやフォーメーションも含めて演出してもらえれば大きな力が表現できると思うので、栗山さんに演出してもらえて嬉しいです。豊橋の劇場に初めてお越しいただくにあたり、一言いただけますでしょうか。

大竹—— 今、大きなリスクを抱えてまでもこの芝居を観たいと、お金を出して劇場という場所に来てくれるわけですから、それは劇場自体が普通の時とはまた違う雰囲気になると思うのです。それに比べられるような、「あーやっぱり来てよかった。生の芝居を観てよかった」と思うような芝居を、私たちは創らなくてははいけないと思っています。頑張ります。

どうもありがとうございます。

12月10日[金]18:00開演
11日[土]・12日[日]13:00開演
作=ロバート・アイク / 翻訳=小田島恒志 / 演出=栗山民也

出演=大竹しのぶ /
橋本さとし、村川絵梨、橋本淳、宮崎秋人、那須凜、天野はな、久保耐吉 /
明星真由美、床嶋佳子、益岡徹
会場=PLAT主ホール

パルコ・プロデュース2021

『ザ・ドクター』

とある医療機関のパワーゲーム
現代社会の縮図がここにある



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話 0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]
●オンライン <http://toyohashi-at.jp> [24時間受付・要事前登録]

U25・高校生以下割引で案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金=U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円
●購入方法=各公演の一般発売日から取扱い。
●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

新型コロナウイルス感染症予防対策

●チケット販売=感染予防のため発売初日の窓口販売はなし。翌日以降残席がある場合は窓口販売あり。
※その他、最新情報は劇場ホームページからご確認ください。

アル☆カンパニー『POPPY!!!』



撮影:新谷光太郎

『ザ・ドクター』



大竹しのぶ

二兎社『鷗外の怪談』



松尾貴史



瀬戸さおり



木野 花

近藤芳正 Solo Work『ナイフ』



大阪フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会



沼尻竜典[指揮]



松田華音[ピアノ]
撮影: Ayako Yamamoto

プラットワンコインコンサート



辻 純佳[ヴァイオリン]

プラットワンコインコンサート



波多野 董[ピアノ]

10/15 [金] 19:00開演「BEACH」 **好評発売中**
10/16 [土] 13:00開演「CYCLE」/18:00開演「DELAY」
10/17 [日] 13:00開演「DELAY」
PLAT小劇場シリーズ
マームとジブシー『BEACH CYCLE DELAY』
2018年からマームとジブシーがドイツのシューズブランド・trippenと共に取り組んでいる本作。これまでに『BEACH』『BOOTS』の2作品を発表しましたが、『CYCLE』は今回が初上演。『BOOTS』はタイトルを『DELAY』に改め、リニューアルします。
●作・演出=藤田貴大 ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般3,500円、3作品セット券9,000円ほか

10月17日のみ

10/22 [金] 19:00開演 **好評発売中**
ハルモニア・レニス
「シェイクスピアの旋律」
誰もが知っているシェイクスピアの知られざる劇音楽の世界!英国史上最高の作曲家といわれるヘンリー・パーセルの傑作「音楽が恋の糧なら」(『十二夜』より)や「泣かせてください」(『妖精の女王』(原作:真夏の夜の夢)より)等、シェイクスピアを題材にした音楽をお楽しみください。
●出演=ハルモニア・レニス、[ゲスト]広瀬奈緒(ソプラノ)、戸田薫(ヴァイオリン) ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般3,500円ほか
※共演を予定していたレ・タンブルは、来日が困難となり出演を見送ることになりました。

11/6 [土] 13:00開演/18:00開演 **好評発売中**
11/7 [日] 13:00開演/17:00開演
高校生と創る演劇『ミライハ』
公募による高校生と劇場やプロのスタッフがともに創作する演劇公演の第8弾。岸田國士戯曲賞受賞の松原俊太郎の新作を、スペースノットブランクを演出に迎えて創作します。●作=松原俊太郎 ●演出=スペースノットブランク(小野彩加、中澤陽) ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円

11月6日 13:00のみ

11/12 [金] 18:00開演 **好評発売中**
11/13 [土] 13:00開演
劇団スーパー・エキセントリック・シアター
第59回公演
ミュージカル・アクション・コメディ
『太秦ラブソディ〜看板女優と七人の名無し〜』
社会性のあるテーマを扱いながら、総勢40名以上による笑い、ダンス、アクション満載のエンターテインメント作品をお届けします。
●脚本=吉高寿男 ●演出=三宅裕司 ●出演=三宅裕司、小倉久寛、劇団スーパー・エキセントリック・シアター ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席7,000円、S席ベアチケット12,000円、A席5,000円、B席3,000円ほか

11月13日のみ

11/21 [日] 14:30開演 **好評発売中**
令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業
市民と創造するダンス公演
『舞踏 豊橋妖怪百物語』
●振付・演出・美術・出演=田村一行 ●出演=公募で選ばれた市民/小田直哉、藤本梓/内浦有美 ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般1,000円、U25 500円

11/25 [木] 14:00開演/18:30開演 **好評発売中**
野村万作・野村萬斎
狂言公演 2021
●出演=野村万作、野村萬斎、野村裕基、ほか万作の会 ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席6,000円、A席5,000円、B席3,000円ほか【特別協賛:サーラグループ】

14:00のみ

12/4 [土]・5 [日] 14:30開演 **12月4日のみ**
PLAT小劇場シリーズ
アル☆カンパニー『POPPY!!!』
●会員先行=10月9日(土) ●一般=10月23日(土) ●作・演出=野田慈伸 ●出演=平田満、井上加奈子、町田水城、平田耕太郎、徳橋みゆり、青山祥子 ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般3,500円ほか



劇団スーパー・エキセントリック・シアター
第59回公演
ミュージカル・アクション・コメディ
『太秦ラブソディ
〜看板女優と七人の名無し〜』

12/10 [金] 18:00開演
12/11 [土]・12 [日] 13:00開演
『ザ・ドクター』
●会員先行=10月16日(土) ●一般=10月23日(土) ●作=ロバート・アイク ●翻訳=小田島恒志 ●演出=栗山民也 ●出演=大竹しのぶほか ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席10,000円、S席ベア18,000円、A席8,000円、B席6,000円ほか
※各発売日初日は、お一人様1申込みにつき1公演のみ4枚までの枚数制限あり

12月11日のみ

2022/1/15 [土] 13:00開演 **1月15日のみ**
2022/1/16 [日] 13:00開演
二兎社『鷗外の怪談』
2014年に初演し、ハヤカワ「悲劇喜劇」賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した作品を新キャストにより再演します。
●会員先行=11月6日(土) ●一般=11月20日(土) ●作・演出=永井愛 ●出演=松尾貴史、瀬戸さおり、洲野右登、木下愛華、池田成志、木野花 ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席6,000円、A席5,000円、B席3,500円、『ナイフ』2公演セット券[S席]8,500円ほか

2022/1/29 [土] 18:00開演 **1月30日のみ**
2022/1/30 [日] 14:30開演
PLAT小劇場シリーズ
水戸芸術館ACM劇場/ラ コンチェン共同製作
近藤芳正 Solo Work『ナイフ』
●会員先行=11月6日(土) ●一般=11月20日(土) ●原作=重松清『ナイフ』(新潮文庫刊「ナイフ」所収) ●脚本・演出=山田佳奈 ●フィジカルコーチ=大石めぐみ ●出演=近藤芳正 ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般4,000円、『鷗外の怪談』2公演セット券8,500円ほか

2022/2/5 [土] 16:00開演
大阪フィルハーモニー交響楽団
特別演奏会
●会員先行=11月27日(土) ●一般=12月4日(土) ●出演=沼尻竜典[指揮]、松田華音[ピアノ]、大阪フィルハーモニー交響楽団 ●会場=ライブポートとよはし コンサートホール ●料金=[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか

ライブポートとよはし

若手音楽家育成事業 **好評発売中**
プラットワンコインコンサート
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
●会場=PLATアートスペース
●料金=[全席自由・整理番号付]500円

11/24 [水] 14:00開演
『名ヴァイオリニスト クライスラーを愉しむ音楽会』
辻 純佳(ヴァイオリン)
12/24 [金] 14:00開演
『折りと憧れ』
波多野董(ピアノ)

2022/1/8 [土] 14:00開演
『チューバとピアノで巡る20世紀』
こてまりデュオ 磯谷莉佳(ピアノ)、加藤由依子(チューバ)

ワークショップ・レクチャー
ワークショップファシリテーター養成講座
2021[後期]『まちを知る、考える』(仮)
●日程=12月~2022年2月(全8回)
●講師=すずきこた、柏木陽、吉野さつき
●会場=PLATほか
●料金=3,000円
●対象=18歳以上で、極力全日程参加できる方。演劇経験不問。
●募集人数=20名(応募者多数の場合は選考)
●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。



「好き」を見つけた、文化祭

芸術文化アドバイザー

桑原裕子

演劇、音楽、落語、アート、読み聞かせや哲学、創作ワークショップ。

様々な芸術を集めて劇場という大きなお皿に載せ、好きなものを皆さんに召し上がっていただく、ぶらっと文化祭「Art Platter」が、9月17日から20日の四日間に渡り、開催されました。

いろんなところでお話したのですが、私は芸術文化アドバイザーに就任した頃から、このPLATでいつか文化祭をやるのが夢でした。

私は学生時代、文化祭がとにかく好きで、準備期間から最終日までの期間は勉強などをつちのけで(まあ、他の期間も大体をつちのけでしたが)ずっとお祭り気分ですごしていました。演劇部だったのでまずはその稽古をし、合間に自分の教室に行ってお化け屋敷の設営を手伝い、空いている時間は他のクラスを冷やかしました。

文化部は普段、校舎の隅にある日の当たらないかび臭い部室にこもり、日陰者として過ごすのがなんとなしの常ですが、このときばかりは花形とばかりに表に出てきます。

とはいえ演劇発表会にお客さんを集めるのは学生でもまあまあ至難の業。文化系部活のトップスターはなんといっても軽音部で、最終日のバンドライブには多くの生徒が集まりますが、演劇部はダサイ、地味、どこに生息してるの、ってな扱いなので、まずはお客さんを集めるためにそのイメージを覆すというミッションがあります。

そこで私たち一年生の新参部員は、先輩に珍妙な扮装をさせられ、でかい看板とビラを持たされて「お客さんを集めてこい」と、校舎という荒野へ放り出されました。

身にまとうのは以前の公演で使ったマントやかぶり物を適当に組み合わせただけのコンセプト不明な衣裳。そんなもんを身にまとっている時点で「ダサイ」の印象を覆すことは既に無理です。

しかしともかく「地味」「大人しい」「生息不明」という印象だけでも変えねばと、私たち一年生は恥ずかしさを押し隠して校内を練り歩きました。

途中で「これは昔テレビで見たチンドン屋という奴では?」と気づくと、私の中に謎のスイッチが入り、思いつく限りの口上を並べて大声で呼び込みをしながら歩きました。同級生の幸子が、看板をもって先頭に立つ私の背中に顔を埋めるようにして歩きながら「バラ子(私はそう呼ばれていました)やめて……恥ずかしい…」とつぶやいたのを憶えています。

結果的にお客さんを集めることが出来たのか、その成果はまったく記憶にないのですが、先輩にはよくやったと褒められました。

「お前はバカみたいに恥知らずで目立つからこの部の看板になれ。しっかりした仕事は副部长の幸子に任せる」そうして私は演劇部の部長に就任したのでした。

自慢ですが、その後私が部長を務めた代の演劇部は全国大会に出て、校舎に垂れ幕が飾られるほどの出世を遂げたので、先輩もなかなか先見の明があったというものではないでしょうか。

あの文化祭で入った謎のスイッチは今も私の中にあります。そして30年近く経った今も、あの頃と大して変わらないことをしてるんだなあ、と思います。

コロナ禍でなければぶらっと文化祭では、もっとやってみたくてがありました。

豊橋の飲食店にお願いして出店を出したり、大道芸の皆さんを迎えてオープニングセレモニーをしたり、海外のアーティストを招いたり、野外ステージを設けてのライブもしたい。文化祭の会場設営を、市民の人たちと一緒に何日もかけてワイワイと作ったりもしたかった。けれどぎゅうぎゅうに人が溢れるような文化祭は、今、叶えることが出来ませんでした。

来ませんでした。

ともともこの時期に文化祭を行うこと自体、良いのだろうかかと迷いました。プロデューサーの矢作さんを初め、PLATの劇場スタッフは、私の何倍も何十倍も、そのことについて悩み、考えてくださったと思います。

それでも出来る範囲をしっかりと線引きしつつ、感染症対策のガイドラインを徹底し、お客さまとも協力し合いながら文化祭を行うことが出来ました。柳家喬太郎師匠の圧巻の落語を皮切りに、Gentle Forest Jazz Bandの華やかなライブ。中尾諭介さん、アルケミスト、として中村中さんという、私も親交の深い素晴らしいミュージシャンを迎えた最終日のアコースティックライブは、まるで宝石箱のようなステージ。

玉田多紀さんのダンボールアートが会場を賑やかに飾り、俳優の平田満さんや小島聖さんが子どもたちに読み聞かせやワークショップを行ったり、私の劇団KAKUTAも新作公演をこの文化祭にあわせて生み出すことが出来ました。

劇場の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんが昼夜を徹して動き回り、笑顔を絶やさずこの文化祭を作り上げてくださったから、私たちはここに集まることが出来ました。

これは最初の一歩ですよね。「Art Platter」がもしかししたら今後も続き、いつか思い描いたとおりの文化祭が出来る日が来るかも知れませんが、すべては、まだコロナ禍の2021年に生まれた、ささやかなこの一歩から。

「好きを見つける」とんなコンセプトから始まった文化祭。

お越し頂いた皆さんは、なにか、好きを見つけたでしょうか。

私は「このPLATが好き」という気持ちを、改めてまた、見つけたような気がします。

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp



吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp



有限会社 魚伊
電話 52-5256



株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Tel.053-422-3628(代)

グロリアンピアノ地域特約店

白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015



竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋市西産婦人科) 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市上野町字ノ上21-8 アイネスD2 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 巖きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 喫茶菓子専門店
若松園
御菓子司

西村能舞台

豊橋市上伝馬町
代表=西村能二
Mail=nnbutai@gmail.com

気まぐれコンサート

事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パーク500

ソウの親子の看板が印
プラット主ホール・アトスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町閑取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮フ科クリニック

診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
豊橋市兵服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

生活にファインクオリティ

sala

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

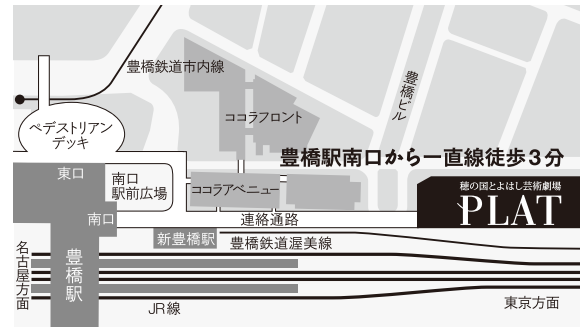


プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金
U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:1,000円
●購入方法
各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT